

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE

1.3.5.7.9月発行

2019

48

March

CONTENTS

- サマースクール2018、告知、第72回学術集会情報、JATS Academy、JATS Research Project Award 1～2面
- 第1回理事会ニュース、正会員申請案内 3面
- 第36回日本呼吸器外科学会総会、第47回日本血管外科学会学術総会、編集後記 4面

サマースクール2018 **開催報告** 呼吸器外科 心臓血管外科

今年も大好評につき、サマースクールを開催いたします。昨年は、**呼吸器外科サマースクール2018**（肺の手術にトライしてみよう）が、呼吸器外科学会、エチコン、メドトロニックとの共催、肺癌学会と呼吸器学会の協賛の下、7月7・8日に神戸医療機器開発センターとニチイ学館ポートアイランドセンターで開催。大豪雨にも関わらず、医学生24名、研修医47名が参加し、ウェットラボを中心に、講義、胸腔鏡手術ドライラボ、コンテストと盛りだくさんの内容を体験。一方、**心臓血管外科サマースクール2018**（この夏、君は心臓血管外科の魅力と出会う！）は、心臓血管外科学会と血

管外科学会との共催の下、8月18・19日にテルモメディカルプラネックスで開催。医学生49名、研修医58名が参加し、実際の機器を用いたウェットラボ、ドライラボ、模擬ライブ手術を通して心臓血管外科を実体験。共に懇親会があり、講師や全国の仲間達との交流を深め大いに盛り上がりしました。対象は医学生と研修医であり、将来の志望とは関係なく、両外科領域に少しでも興味があれば、一流の講師や仲間と触れ合える場として参加を募ります。体験と交流が将来の進むべき道へとつながることを期待します。暑い夏、皆で熱く語ろう。【研究・教育委員会 委員長 荻野 均】

呼吸器外科サマースクール

肺の手術にトライしてみよう



参加者の声

2018年7月7・8日 in 神戸

ベーシックコース

●この度は呼吸器外科サマースクール2018に参加させて頂き誠にありがとうございました。

サマースクールの内容は盛りだくさんで、講義とシンポジウムはとてもためになりましたし、先生方のお話はとても興味深く、楽しかったです。

またウェットラボ・ドライラボでは皮膚縫合、気管支吻合、摘出心肺を用いた肺葉切除、麻酔下の豚を用いた閉胸、胸腔鏡の手技と初めてのことばかりでしたが、呼吸器外科医のイメージが湧きました。これはまだまだほんのさわりだけだとは思いますが、呼吸器外科の魅力を感じることができました。

そして、2日目に行われた胸腔鏡のコンテストで2位に入賞できたことを大変嬉しく思います。腹腔鏡・胸腔鏡は数回練習したことがあるくらいでしたが、先生のご指導やアドバイス、同じグループの仲間と共に試行錯誤して考えた方法のおかげで上手くいきました。自分一人の力だけでは入賞することはできなかったと思います。夜の懇親会ではたくさんの先生方や学生達と交流することができました。

今回が初めての参加で僕の学年は4年生と参加者の中では低学年だったので、しっかりみんなについていけるのか上手くできるのかと、とても不安でしたが先生方のご丁寧なご指導のおかげで無事にやり遂げることができました。また機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

この2日間、とても貴重な時間を過ごす事

ができたこと、改めてお礼を申し上げます。有難うございました。（男性・学生4年生）

アドバンスコース

●今回初めて呼吸器外科サマースクールに参加させて頂きました。初めて出会う方々と2日間過ごすことにとても緊張していましたが、グループの皆さんと協力しながら実習を行っていく中で、緊張が解け、いい雰囲気を実習を行うことが出来ました。

豚を用いたウェットラボでは、ちょっとした操作で出血してしまったり、血管結紮がうまく出来なかったりとこの実習でしか分からない手技の難しさや繊細さを体験できたことはとても貴重な経験となったと同時に、手術の楽しさを今まで以上に感じる事ができました。

内視鏡のドライラボでは一見簡単そうに見えて、実際やってみるとまったく思い通りに動かせないむず痒さがあり、もっと練習して上達したいという気持ちになりました。

また今回のサマースクールでは呼吸器外科の女医の先輩方のお話を伺う機会も多く、実際に自分が呼吸器外科医になったときの将来像を想像し、考えることが出来ました。今までは女医として外科を選ぶことの不安が少なからずあったのですが、第一線で活躍する女医の先輩方の姿をみることで、不安よりも期待とやはり外科医になりたいという気持ちの方が強くなりました。

主催の皆様、インストラクターの先生方、そして一緒に切磋琢磨したグループの皆様、この度は貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。（女性・研修医1年目）

インストラクター

●平成30年7月7日・8日の2日間、3年連続で、呼吸器外科サマースクールのインストラクターとして参加させて頂きました。折しも、西日本豪雨のど真ん中でありました。開催が危ぶまれ、神戸以西の西日本から参加できない学生、研修医、インストラクターが多かったのは残念でありましたが、7割もの学生や研修医、インストラクターが集まり、例年の如く開催されたことに驚きを隠せませんでした。インストラクターの中には、わざわざ、四国から貨物船に乗せてもらい駆け付けたり、新幹線も走らない中、前日から、迂回してまで駆け付けた医師もあり、教育熱心な姿勢に心打られました。今回は、生徒も少なくなったため、例年以上に濃密な2日間であったので

はないかと思います。このスクールでは、技術的な事はもちろん、何より、同じ道を目指す全国の仲間、知り合いを作る事が出来るのが大きなメリットではないでしょうか。例年、生徒同士、沢山の仲間ができており交流を深めています。我々インストラクターも若い生徒から刺激を受けています。2日目昼には、ランチョンで、呼吸器外科医の海外協力について少し時間を頂きお話しさせて頂きました。解散前に多くの生徒、インストラクターから、質問を受け、微弱ながら、途上国への医療技術協力等、呼吸器外科の魅力をお伝えできたのかと考えております。このスクールを通じ、一人でも多くの若い先生が、呼吸器外科になってくれれば幸いです。呼吸器外科医の手術は国内・外問わず、沢山溢れ・て・い・ま・す。（男性・インストラクター）

心臓血管外科サマースクール

この夏、君は心臓血管外科の魅力と出会う！



参加者の声

2018年8月18・19日 in 神奈川

医学部学生コース

●心臓外科について、様々に見、聞き、知ることができました。様々な術式やデバイスを見学させて頂いたことで、イメージを広げることができました。大学の授業では学ぶ事のできない現場の雰囲気を味わうことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。学生のうちにこのような様々なことを知れたのは、とても財産になったと思います。皆々様のような医師になれるよう、さらに学業に励んでまいります。（男性・学生5年生）

●普段の狭い環境から、また違った様々な大学の人がいる環境で2日間過ごせたことは非常に貴重な経験となりました。他大学

の学生とくだらない話から医学に対する考えや熱く思いを話し合え、自分にとっては非常に刺激的でした。普段の学生生活に戻ってからもこの気持ちを忘れないようにします。また、素晴らしい先生方と関われたことは、今後の人生という枠で考えても大きな影響を持つものと思います。ありがとうございました。（男性・学生5年生）

●身近に女性の心外の先生がいっぱいじゃなかったのが、参考になった。また、普段のポリクリではできない手技が行えたこと、同じ外科を目指す学生と知り合えたのはとても良い機会だった。できれば実習（ハンズオン）の時間を少しでも長くするために事前に講義資料を配布していただくなどが改善できる点かと思う。懇親会のご



特定非営利活動法人日本胸部外科学会
The Japanese Association for Thoracic Surgery

<http://www.jpats.org/>

飯やお酒がとても美味しく、心外学会の活
気を感じた。 (女性・学生5年生)

●普段は関わるできない全国の学生
と一緒に過ごし、友達になることができ
とても有意義な2日間でした。セミナーを
通じて運針などの手技が少し向上できまし
た。心臓血管に興味がある人はもちろん、
そうでなかった人も楽しんで参加できる内
容でした。ありがとうございました。

(男性・学生5年生)

●今回このサマースクールに参加させて
いただけて、大学の実習ではあまり経験で
きなかった縫合体験は先生の手厚いで教授の
もとと教えていただいたおかげで自分がこれ
からどのような事に注意しながら取り組め
ばいいのか考えるきっかけになりました。
また、CABG、ASDなど、大学の実習では経
験しないようなwet labを体験させていた
だいて、とても貴重な体験をすることがで
きました。一方、2日間の短い期間では
が、他大学の人達と交流が出来、特に普段
関わるできない西日本の大学の人達と
交流できたのはとても良かったです。こ
れからもこのサマースクールで出来た仲間
を大切にしていきたいと思います。

(男性・学生5年生)

●今回初めて参加させていただきました。
様々な企画をご用意していただけて大変満

足しました。非常に充実した2日間となり
ました。本当に自分にとってこのような企
画に参加させていただいたのは初めてであ
ったので、慣れない所や不安であった部分
がありましたが、絶対に経験のできないよ
うな貴重な体験がたくさんでき、また懇親
会では様々な方と出会うことができ、非常
に充実した2日間となりました。また来年
も是非参加できたらと考えています。本
当にありがとうございました。

(男性・学生6年生)

初期臨床研修医コース

●多様性に富んだ手技を体験させていた
だきありがとうございました。自分がいか
に、どのような点が欠けているかを知るこ
とができ、またそれをどのような手段で改
善すべきかよく分かりました。またLiveの
手術では他の研修医の先生方がどのよう
なlevelの視点を持っているのかが分かり
ました。これから努力する気がとても湧い
てくる刺激的な2日間でした。

(男性・研修医1年目)

●BeatingのCABGをやることができると
も勉強になりました。マイクロの鑷子やカ
ストロビエホなどを使う機会が少なかつ
たので、持ち方から運針の仕方、実際に縫
ってみるということが見ているよりも難し

と実感しました。また、講義も学生の時と
は違って実際に手術に入っているからこそ
聞いて納得し、今後の自分の理解により生
かせると思いました。とても貴重な講義を
ありがとうございました。とても充実した
2日間でした。 (女性・研修医4年目)
●2日間に渡り貴重な経験をさせていただ
き、誠にありがとうございました。なか
なか普段はできないCABG やAVRの手技を行
うことができ、とても刺激になりました。
U-40の方の話も、近い将来を考えたとき
にとっても参考になりました。今回の経験
をもとにこれからも精進してまいりたいと
思います。このような経験をできる場を設
けていただき、誠にありがとうございました。

(女性・研修医2年目)

●参加して一番
良かったことは、先輩方のお
話が聞けたこと
です。何故心臓
外科になっ
たか、どのよう
にキャリアを積
んで来られたか
等、非常に貴重
な機会になり
ました。またwet

labでは実際の臓器に触れることができ、
さらに心臓外科医として活躍したいとい
う気持ちが強くなりました。2日間有難うご
ざいました。 (男性・研修医2年目)

●今回で2回目の参加であったが、新しい
発見も多く、実りある研修であった。普段
みている手術をわかりやすく講義して
いただいたり、注意点を詳しくまとめた
いただいたりとすべて貴重な経験であ
った。Wet labでは普段できないような手
技をたくさん体験することができ、この
点でも素晴らしい経験であった。講師
の先生から教えていただいたこと、手
技を通して学んだことを糧に心臓血管
外科への道をすすんでいきたい。
(男性・研修医1年目)

呼吸器外科サマースクール

肺の手術にトライしてみよう

2019
8/17(土)・18(日)

【会場】神戸医療機器開発センター (MEDDEC)
ニチイ学館ポートアイランドセンター

心臓血管外科サマースクール

君も心臓血管外科ビレッジに集まろう！見えてくるぞ、心臓血管外科医！

2019
8/17(土)・18(日)

【会場】
テルモメディカルプラネックス

参加申込など詳細は日本呼吸器外科学会、
日本心臓血管外科学会、当会のHPをご覧ください。

第72回日本胸部外科学会定期学術集会 胸部外科の伝統とイノベーション

会期：2019年10月30日(水)～11月2日(土)

会場：国立京都国際会館 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池

会長：伊達 洋至 (京都大学 呼吸器外科学 教授)

URL：http://www.congre.co.jp/jats2019/

演題募集期間 2019年2月27日(水)～4月17日(水)

※公募演題詳細等はホームページで随時更新してまいりますのでご確認ください

Postgraduate Course (予定)

心臓血管外科コース	呼吸器外科コース	食道外科コース
10月30日(水)・11月2日(土)	11月2日(土)	11月2日(土)

主要プログラム

- ①特別企画 ④パネルディスカッション ⑦クリニカルビデオセッション
②シンポジウム ⑤ワークショップ ⑧一般演題(口演・ポスター)
③ビデオシンポジウム ⑥ビデオワークショップ

主催事務局：京都大学 呼吸器外科学 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
Tel：075-751-4975 Fax：075-751-4974

運営事務局：株式会社コングレ 大阪本社 〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-1-13
Tel：06-6229-2555 Fax：06-6229-2556
E-mail：jats2019@congre.co.jp



JATS Academy 2018.10 OPEN!

本年度より、若手・中堅胸部外科医の臨床、研究両面での育成を主たる目的として、「JATS Academy」を本学会web siteに立ち上げました。掲載コンテンツとして、手術ビデオ・ライブラリー、研究(支援プロジェクト、学会主導プロジェクト、など)、教育コース・e-ラーニング(PGCテキストアーカイブ、教育講演内容、など)、専門医関連、教育カレンダー(国内外の関連学会・セミナーなど)、ガイドライン(国内、欧米の関連ガイドライン)、などを掲載(予定)しています。また、本Academyでは胸部外科分野全体の研究・教育を推進すると同時に、新たな試みとして心血管(冠動脈、弁膜症、大動脈、先天性、移植・補助心臓、不整脈)、肺、食道の各部門にドメインを置き、各部門のリーダーがその運営に積極的に参加し、個別的にも充実したものを目指しています。先ずは、手術ビデオ・ライブラリーを中心に事業展開しており、一部の内容は閲覧可能な状況にあります。順次、上記コンテンツを充実させ、本学会が目指す研究・教育の推進を図る予定です。なお、本Academyのコンテンツの視聴、閲覧に関しては、個人情報保護や著作権保護の観点から、一部、本学会の会員資格を必要とします。特に、手術ビデオ(転写防止目的でJATSのマーク入り)の転写は厳しく禁止します。視聴においても職場でのPCからのものを原則とし、外部への拡散に十分注意して下さい。違反者には、本学会から厳しい処罰を科すこともありえます。

JATS Academyは、産声を上げたばかりです。次世代へのメッセージの媒体として、会員全体で育てていくことが重要であり、皆様からのご意見・要望をお寄せください。

研究・教育委員会 荻野 均



会員ページにログインしてご覧ください！

JATS Research Project Award (日本胸部外科学会研究助成)

研究・教育委員会

昨年度、若手・中堅胸部外科医の臨床および基礎の両面において研究活動を支援すべく、『JATS Research Project Award』を設立いたしました。

本邦の胸部外科の診療レベルは、小切開・鏡視下・ロボット支援手術など新たな技術が臨床導入され、低侵襲かつ効率的な外科治療が急速に進み国際的にも高い位置にあります。しかしながら、研究面においては、大学院レベルでの基礎研究を専攻する外科医の数が減少傾向にあり、中堅外科医も含め、研究活動における国際競争力の鈍化が危惧されます。さらに、公的研究資金の獲得も限られ、資金面においても研究活動が困難なものになりつつあります。そこで、教育・育成活動の一環として、若手・中堅胸部外科医を対象に毎年2つのAwardを授与し、研究資金の支援も含め研究活動を推進することとなりました。

毎年、秋から年末にかけて募集し、春までに受賞者を選考するというスケジュールで行っており、現在第2回の選考中です。

第1回受賞者(敬称略・所属(応募時))

JATS award for transitional clinical research (臨床研究助成)

(研究期間：3年 支援額：100万円 選出数：1件)

新宮 康栄 (北海道大学病院 循環器・呼吸器外科)

JATS award for young investigators (若手胸部外科医研究助成)

(研究期間：2年 支援額：50万円 選出数：3件)

心臓 于 在強 (弘前大学医学部附属病院 胸部心臓血管外科)

肺 椎名 裕樹 (千葉大学医学部附属病院 呼吸器外科)

食道 井上 聖也 (徳島大学大学院 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野)

1. 各種委員会報告及び審議事項

2019年度委員会構成・委員選任(対外委員会含)および年度目標

(1) 理事会

定款に基づく事業計画(年度目標)が報告された。また、本年度は一般社団法人化への移行準備、学術集会における3分野会長制度の導入、地方会との連携、事務所移転を同時進行で進める予定である。

審議事項

1) ボローニャAortic symposium 2019への協賛(2年に1回)

JATSのロゴをパンフレット(プログラム)に印刷する要望があり、前回同様に承認された。

2) AATSとのジョイントシンポジウム

12月のAATSのcouncil meetingで方針が決定するが、本会も前向きに進めることが方針として承認された。

3) 70周年記念誌発行

上製本(ページ数増)への変更のため予算額が増額となり、実際の装丁本を回覧し検討することになり、その結果、増額することが承認された。記念誌は2019年1月に会員・関係各所へ発送予定である。

4) 事務所移転

日本外科学会も移転を予定しているとのことで理事長宛てに同一移転先ビルへの移転・会議室共有等の相談依頼文書を送付した。第1段階として担当委員長同士(総務委員会)で調整との回答があったことが報告された。

5) 新専門医制度に伴う共通講習・領域講習のクレジット管理(QRコード費用等)

第71回学術集会の際に実施し、諸費用(システム利用料・PC端末費・スタッフ人件費等)が発生したため検討した。その結果、心臓は認定機構、呼吸器は合同委員会、食道・その他は学術集会(学会)で費用負担をすることが承認された。また、第72回学術集会も同様に実施することが確認された。今後については日本外科学会がシステム構築をする予定で動向をみる。

(2) 総会将来計画委員会

法人格の変更は一般社団法人化委員会、分野別会長制度の導入は学術集会委員会、地方会との整合性は地方会のあり方委員会、事務局強化は事務局増員予定で対応することが報告された。

(3) 政策検討委員会

年度計画は本会が社会にどのような働きかけを行うべきかを検討する。

(4) 専門医制度委員会

日本外科学会を通じて日本専門医機構に心臓と呼吸器外科専門医整備基準を提出したが、まだ回答なく、対応が遅れていることが報告された。また、日本外科学会では新専門医制度における症例数最低経験数WGを立ち上げたことが報告された。

1) 心臓血管外科専門医認定機構

10月11日に開催された心臓血管機構総会決定事項が報告された。

2) 呼吸器外科専門医合同委員会

本年度の新規申請者103名、書類審査合格者95名で試験受験者95名、合格者77名、専門医申請条件の業績を著書は削除し、論文だけにしたことが報告され、本理事会でも承認された。

3) 食道外科専門医

11月17日に専門医試験を実施、12月上旬に合否が決定することが報告された。

(5) 会誌編集委員会

11月10日現在の論文投稿数は昨年と比べ増加しており364編(Original Article160編、Case Report167編等)、Accept率(Original Article50.4%、Case Report33.4%)、投稿受付からAcceptまでの平均所要期間およびAcceptからOnline First掲載までの期間は徐々に短縮傾向、Invited Review Article(26編依頼中、13編審査中)、Preliminary IF(2017年1.202、2018年0.929予定、2019年1.2予定)、2019年6月に正式なIF値が決定することが報告された。

審議事項

1) JCVSD報告の論文

2015年と2016年のJCVSD報告(Congenital、CABG、Valve、Aorta)を準備中で心臓血管外科学会雑誌には11月号に掲載予定であるが(全4編で1号に1編掲載)、GTCSへは4編まとめて掲載との依頼があった。前向きに承認とするが、secondary publicationを遵守した上で心臓血管外科学会理事会で詳細を検討していただくよう依頼した。

2) GTCS誌の海外送付

海外施設へのGTCS誌送付を送付先不明が多い等の理由により中止にすることが提案され承認された。

(6) 学術委員会



Annual Report 2016は、呼吸器と食道はReportも作成済み、心臓は英文校正の段階、2019年早々には公表できる予定であることが報告された。また、食道領域のAnnual ReportをNCDデータから自動集計することを進める中で、データの持主の日本消化器外科学会にデータを利用する申し入れを行ったところ「消化器外科データベース協議会」への参加要請があった。会員の負担を軽減する意味でも、また領域横断的な学術活動推進の意味でも費用100万円を支払いデータ活用するために同協議会への参加が提案された。検討の結果、心臓と呼吸器にも一定の負担金を支出しているの、食道のNCDデータを直接いただくことは問題ないとのことで承認された。

(7) 学術集会委員会

1) 第71回学術集会総括と次回への展開

3,561名の参加者、アンケートの回答者1,017名、不参加者アンケート回答者118名であったことが報告され、参加者およびアンケート回答者数は過去最高、評価も高評価であった。次回への展開としては、総会は朝開催を継続、スクリーンは国際標準が16:9のため統一する方向、画像つき学術集会メール配信は有効、第71回から第72回へ具体的に引継ぎ・申し送りを行うことが重要(海外招請者等)、Techno Academy・Surgical Colosseum・Gladiator Sessionは好評で第71回だけにせず、評価の高いプログラムは継続する等が報告された。

2) 第72回学術集会プログラム内容

学術集会委員会が会長と連携してプログラム構成を考えるが、1.専門医制度委員会と2.処遇改善・男女共同参画委員会・チーム医療推進委員会の2つはSocial programとして各委員長からプログラム内容を提案していただき、ホームカミングセッションの継続は国際委員会が検討する。

3) 分野別会長制度の導入

事務局機能の強化が必須であり学術集会事業担当者の選定が急務である。

4) 学術集会参加費

第72回学術集会から正会員の参加費を3年間にわたり5,000円割引くことを実施し評価する。

5) 学術集会マニュアルの更新

海外演者の招請は上限を決めて相手に購入してもらう、エビデンスをもらってから支払う方がよい等の意見がだされた。

6) 第72回学術集会

プログラム委員会を2回開催し、5プログラム(成人心臓、大血管、先天性、呼吸器、食道)にて作成中である。食道と呼吸器のPGCは最終日の午後で、心臓のPGCは例年通り前日と最終日の午後実施。メインプログラムは山中伸弥先生に特別講演およびシンポジウムとして胸部外科とips再生医療(澤芳樹先生)、外国人の招請(AATSとEACTSの会長を含む)、Social Programは3つ「労働環境とチーム医療・専門医制度」「男女共同参画」、トラベルグラント(10万円×10人)を計画していることが報告された。第72回ではAortic Symposiumのために翌日会場を確保している(参加費徴収)が、今後はPGCをBasicとAdvancedの2つに分けずに、Aortic SymposiumやMitral Conclaveに充当できるように検討することが提案された。

7) 委員構成

会長・幹事は会期後1年委員を継続し、また第73回の分野別会長にも就任していただく。

(8) 財務委員会

第71回学術集会の監査終了後4月に委員会開催を予定であることが報告された。学術集会の収支を抜本的に見直し収益事業としてとらえるべきとの意見がだされた。

(9) 倫理・安全管理委員会

第72回学術集会の医療安全講習会の企画、医療事故調査制度の周知と対応、外部調査依頼対応等が報告された。学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針の実施は、日本外科学会での対応状況が報告され、本会では第73回学術集会の演題募集から開始予定であることが報告された。また、2年ごとに手術の見直しがされている高難度新規医療技術リストの改訂は次回からは本委員会が対応する。

(10) 診療問題委員会

平成32年外保連要望項目の提出と保険点数収

載の活動を2018年11月末日までに提出予定である。現状での提出項目は以下の通りである。

1) 心臓血管外科

新設項目はPT-INR自己測定器加算、左心耳閉鎖、改正項目は手術通則14の改正(1)および(2)3つ以上を同時に行った場合は第3の手術にも加算される、材料加算は冠動脈バイパス術用自動吻合器(加算)

2) 呼吸器外科

新設項目は肺悪性腫瘍手術区域切除(ロボット支援)、拡大胸腺摘出術(重症筋無力症に対する)ロボット支援。また、外保連(手術)委員会からの確認として、K606血管露出術、K607-2血管縫合術(簡単なもの)、K607-3上腕動脈表材法、K608-2外シャント血栓除去術、K608-3内シャント血栓除去術の主学会を本会から日本血管外科学会に移管することが承認された。

(11) 研究・教育委員会

審議事項

1) NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の公募への応募

ー1. 本年度申請

日本外科学会からの「NCDビッグデータを活用した外科医療資源の適切な配分に関する横断的検討」、本会からの「NCDデータを利用した大動脈食道瘻の多領域に渡る実態調査研究」及び「呼吸器心臓血管外科領域疾患における術後脳梗塞の発生因子の解析」の3題の応募に関し、NCD臨床研究推進委員会からデータ利用の許諾や協力可否の回答依頼があり、検討の結果、本会として承認することとした。

ー2. 昨年度申請

日本外科学会から昨年提出され、採択された課題の研究計画に修正があり、当初の課題名を変更して「NCDデータ活用によるがん手術入院にかかる医療費の臨床病期別検討」となったので、NCD臨床研究推進委員会から改めてのデータ利用の許諾や協力可否の回答依頼があり、検討の結果、本会として承認することとした。

2) 3学会構成心臓血管外科サマースクール実施合同委員会設立依頼

日本心臓血管外科学会理事長及びサマースクールWG委員長から上記委員会設立依頼の文書が送付され、本会から志水理事を委員に推薦することが承認された。

報告事項

1) JATS Research Project Award(日本胸部外科学会研究助成)

第1回 今秋の学術集会にて受賞者発表を終え、研究の進捗状況報告を2019年3月末に受領予定第2回 11月初旬から募集開始で12月25日(火)必着締切。基金は第71回学術集会時より第2回募集開始

2) JATS Academy

10月3日(月)会員ページ内に手術ビデオ・ライブラリー、研究支援、PGCテキストアーカイブ、関連学会日程などを公開中である。

学会トップページにJATS Academyを実施していることを掲載し、Web上に見やすいように変更することが承認された。また、学会アプリを作成したことによって、会の日程や全体の流れを見ることができるようになった学会もあり、本会も広報(Homepage・Internet)委員会と同じようにできないか検討することとした。

3) Postgraduate Course進捗状況

2022年までの胸部外科PGCのテーマは作成済みであるが、心臓血管外科については現状のBasicとAdvancedを分けるのはいかがかという

意見、AortaやMitral conclave開催の件もあり、要検討事項となった。

(12) 広報(Homepage・Internet)委員会

Newsletterは年5回発行予定で広告規定の策定を進める、ホームページは胸部外科学に関する広報事業として各種学会・委員会活動の掲載・広告募集及び全般の再構築(アプリの採用等)を予定していることが報告された。

(13) 総務・渉外委員会

理事会ニュースの管理、勤務医師賠償責任保険等加入管理、関連学会試験結果について管理する。Web会議システムの導入は他学会を参考に再検討を行う。事務所移転は日本外科学会と同一の移転先ビルとする方向であるが、本会は会議室の利用が多いためWeb会議の活用を含め検討する。

(14) 臓器移植委員会

臓器移植関連学会協議会との情報共有を行いながら、会員に広報、心臓・肺移植に関する諸問題について対応予定であることが報告された。

(15) 処遇改善・男女共同参画委員会

本委員会はチーム医療推進委員会とも連携しながら活動を行うこととなった。また、委員会名を労働環境改善にした方がよいのではとの意見もだされた。

(16) チーム医療推進委員会

医師の働き方改革の目的のために特定医療行為研修によって医師の働き方を変更し、許容範囲内におさめること、実質的には処遇改善と本委員会は同じことに取り組むこととなる。学会同士の連携が重要で日本外科学会と2つの委員会を合同で行う予定である。

(17) 国際委員会

2019年度フェロシップ(3年目)申請のご案内と基金支援企業向けの案内、第72回学術集会と協力シラベルグラント(ASCVTS対象)、ホームカミングセッションを今後も継続するかどうかを検討、英文ホームページの構築が報告された。

(18) COI委員会

例年通りの活動予定であることが報告された。

(19) 地方会のあり方委員会

2019年中に会員管理システムの改修(500万円の予算計上)、各地方会から会員管理システムへのアクセス権・閲覧権の検討、地方会でどのような情報を入力するかを検討することが報告された。また、災害ネットワークの構築は日本呼吸器外科学会を参考に、3領域の地域責任者を各地方会で作成してもらうよう依頼する。

(20) J-MACS委員会

11月16日の委員会議事録及び2018年7月現在のJ-MACS Statistical Reportが報告された。

(21) 一般社団法人化委員会

第71回学術集会の際の評議員会・総会で一般社団法人化への移行が承認され、定款・施行細則を作成することが報告された。2019年3月の理事会で承認、会員にパブリックコメントを求め、秋の評議員会・総会に諮る予定である。

2. 2019年度理事会スケジュール予定

第2回1月21日(月)、第3回3月20日(水)、第4回5月20日(月)、第5回7月26日(金)、第6回9月18日(水)、臨時理事会10月30日(水)、新旧引継ぎ理事会11月2日(土)に開催予定であることが承認された。

3. その他

(1) 循環器学会ガイドライン

日本循環器学会から今回発足する外科系3学会(日本心臓血管外科学会、本会、日本血管外科学会)が関与するガイドラインの班長について本会としても承認した。

(2) 先天性心疾患の移行医療に関する横断的検討会

提言が報告された。

(3) 体外循環及び人工心臓管理技術士委員会

2018年の活動内容(試験結果、決算報告書)が資料として提出され報告された。

2020年度 正会員申請について

- 2019年5月7日(火) 正会員申請締め切り日
- 2019年6月17日(月)まで 委員会による審査かつ選出結果を理事会に報告
- 2019年6月20日(木)まで 選出されなかった者への結果連絡
- 2019年7月1日(月)まで 選出されなかった者からの異議申し立て
- 2019年7月16日(火)まで 異議申し立て者に結果を通知
- 2019年8月1日(木)まで 選出者に正会員委嘱通知

申請条件等は学会ホームページをご覧ください。

- ※ 正会員となった場合、2020年度(2019年8月1日)より年会費は18,000円となりますので留意下さい。
- ※ 2019年第72回日本胸部外科学会定期学術集会から3年間、正会員(評議員は除く)に限り、学会参加費が5000円割引かれます。

技術革新時代の呼吸器外科学

第36回日本呼吸器外科学会学術集会について

奥村 明之進 第36回日本呼吸器外科学会学術集会 会長／国立病院機構 刀根山病院 院長

このたび、第36回日本呼吸器外科学会学術集会を2019年5月16日(木)、17日(金)の二日間、大阪市中中之島の大阪国際会議場で開催させていただくことになりました。私は2018年4月に大阪大学から刀根山病院に異動しましたが、引き続き大阪大学呼吸器外科学講座と共に準備しております。本学術集会を大阪で開催させていただくのは初めてであり、大阪大学呼吸器外科教室にとりまして、大変名誉なことと存じております。

近年の科学技術の進歩は著しく、情報工学、人工知能、スーパーコンピュータ、ロボット工学、ゲノム科学などが急速に発展しています。そこで第36回のテーマを『技術革新時代の呼吸器外科学』としました。

昨年4月にDaVinciによるロボット支援手術が保健診療に収載され、本学術集会は1年経過時点での開催となります。DaVinciシステムでは手術を座って行え、手振れ防止機能もあり、外科医の現役の寿命を延ばしてくれると期待しています。今後、日本

も含めて複数の企業から手術用ロボットが提供されると聞いています。外科医の減少が危惧される時代に外科治療の味方になるでしょう。本学術集会が今後の医工連携の更なる発展や新規技術開発のきっかけとなることを、期待しております。

それと同時に、呼吸器外科分野の基礎医学研究の議論にも力を入れたいと思います。肺癌を中心に分子標的療法薬や抗体薬の開発も急速に進んでおり、新しい放射線治療技術も開発され、外科治療の役割が小さくなるのではないかとという危惧も一部にはありますが、現時点ではやはり薬剤治療と放射線治療では悪性腫瘍の根治は難しいのが現状です。外科医もゲノム医療やプレシジョン・メディシンに精通し、これらの治療を外科治療に組み合わせた集学的治療の機会を増やしていくよう積極的に取り組まなければなりません。

これからの外科医療が理工学、情報工学、基礎医学を融合して進化することを心より



期待しております。本学術集会がそのために少しでも貢献できればと願っています。

会場のある中之島は川に囲まれた水都大阪の中心です。大阪市にはユニバーサル・スタジオ・ジャパンがあり、伝統的な繁華街もあり、海外からの旅行者も多く賑わっています。学術集会とともに、大阪を満喫していただくことも期待しています。

多くの先生方のご参加をお待ちしております。

血管外科フロンティア～世界への発信～

第47回日本血管外科学会学術総会について

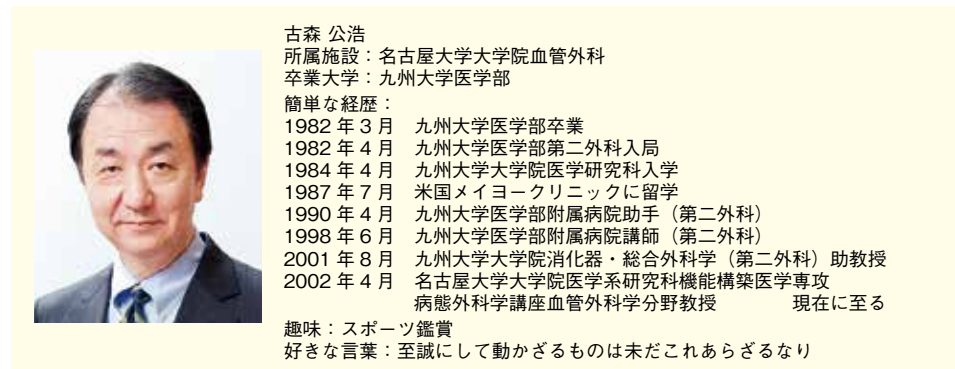
古森 公浩 第47回日本血管外科学会学術総会 会長／名古屋大学大学院医学系研究科機能構築医学専攻病態外科学講座血管外科学分野教授

この度、第47回日本血管外科学会学術総会を名古屋大学大学院血管外科学教室が主宰させて頂く事となり、大変光栄に存じております。会期は2019年5月22日～24日、名古屋のホテルナゴヤキャッスルで開催予定です。現在、学会に向けて鋭意、準備をすすめているところです。

学会のテーマは“血管外科フロンティア～世界への発信～”とさせて頂きました。今後、益々“世界へ発信”できるような臨床、研究を目指して日本血管外科学会が努力して行こうという意気込みと期待を込めて、

このテーマにしました。海外招請講演は現在、アメリカ血管外科学会会長Michael S. Makaroun先生、ヨーロッパ血管外科学会会長Henrik Sillsen先生、そしてAndrew W. Bradbury先生、Michael S. Conte先生、Stephan Haulon先生、Jon S. Matsumura先生が決定しています。アメリカ血管外科学会、ヨーロッパ血管外科学会そして我々日本血管外科学会からも参加して作成された全世界的なガイドライン“Global Vascular Guideline”が本年1月に発表される予定です。その作成に中心に関わったBradbury

先生、Conte先生、お二人に“Global Vascular Guideline”について紹介してもらう予定です。またSVSの会長講演、ESVSの会長講演、SVSとのシンポジウム、特別企画(下記参照)、シンポジウム(下記参照)、その他、教育講演、会長要望演題、一般演題など準備する予定です。また同時期に第11回日韓血管外科学会並びにWorld Federation of Vascular Societiesのシンポジウムも開催予定です。多くの先生方のご参加をお待ちしております。



古森 公浩
所属施設：名古屋大学大学院血管外科
卒業大学：九州大学医学部
簡単な経歴：
1982年3月 九州大学医学部卒業
1982年4月 九州大学医学部第二外科入局
1984年4月 九州大学大学院医学研究科入学
1987年7月 米国メイヨークリニックに留学
1990年4月 九州大学医学部附属病院助手(第二外科)
1998年6月 九州大学医学部附属病院講師(第二外科)
2001年8月 九州大学大学院消化器・総合外科学(第二外科)助教授
2002年4月 名古屋大学大学院医学系研究科機能構築医学専攻病態外科学講座血管外科学分野教授 現在に至る
趣味：スポーツ鑑賞
好きな言葉：至誠にして動かざるものは未だこれあらざるなり

シンポジウム

- 1 「TEVAR 後の再手術」(ビデオシンポジウム)
- 2 「TEVAR の長期予後と合併症について」
- 3 「弓部大動脈瘤治療の中長期成績」
- 4 「B 型大動脈解離治療の最前線 (A 型術後・残存解離を含む)」
- 5 「胸腹部大動脈瘤治療の最前線」
- 6 「傍腎動脈腹部大動脈瘤に対する最善の治療」
- 7 「EVAR 長期予後改善のために」
- 8 「破裂性腹部大動脈瘤に対する最善の治療」
- 9 「大腿膝窩動脈病変をもつ跛行肢の長期治療成績」
- 10 「創傷・全身状態からみた重症虚血肢患者の治療戦略」
- 11 「静脈瘤に対する血管内治療の中長期成績」

- 12 「腸骨大腿静脈閉塞に対する最善の治療」
- 13 「女性医師の会」

特別企画

- 1 「バスキュラーアクセスーシャントトラブル」(ビデオセッション)
- 2 「論文作成方法」
- 3 「血管病の基礎研究」
- 4 「下肢切断法の実践と術後管理」
- 5 「薬事に利用できる血管外科レジストリとは？」
- 6 「off the job トレーニング」
- 7 「バスキュラーアクセスにおけるチーム医療」
- 8 「CVIT 合同シンポジウム」
- 9 「下肢動脈疾患におけるチーム医療による取り組み」

編集後記

200名を超える笑顔に吸い込まれるようにサマースクール2018の開催報告を読み始め、4行目の“大豪雨”の文字で止まった。呼吸器外科サマースクール2018が西日本に平成最悪の水害をもたらした平成30年7月豪雨(へいせい30ねん7がつごうう)のなかでの開催されたことを思い出したからだ。さぞかし……との懸念が過ったが、参加者の声：『呼吸器外科の魅力を感じることができ……もっと練習して上達したいという気持ちになりました』、『女医として外科を選ぶことの不安が少なからずあったのですが、第一線で活躍する女医の先輩方の姿をみて、不安よりも期待とやはり外科医になりたいという気持ちが強くなりました』がその思いを完全に消してくれた。さらに、インストラクターのコメント：『インストラクターの中には、わざわざ、四国から

貨物船に乗せてもらい駆け付けたり、新幹線も走らない中、前日から、迂回してまで駆け付けた医師もおり……このスクールを通じ、一人でも多くの若い先生が、呼吸器外科になってくれれば……』では、自然に低頭しながらサマースクールの意義を再確認させられた。

2面に情報提供されている日本胸部外科学会の新たな取り組み・JATS Academyについて一言。10月に始まったばかりではあるが、既に手術ビデオ・ライブラリーはかなり充実している。私は先天性心臓外科医であるが、成人心臓外科のみならず時に呼吸器外科や食道外科の手術も楽しませてもらっている。皆さんも早めにチェックしてみたい。Let's Log in.

広報委員会副委員長 坂本 喜三郎

日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

No.48
2019年3月10日発行

発行◎特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL◎03-3812-4253 FAX◎03-3816-4560
URL◎http://www.jpats.org/

編集◎日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail◎jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◎株式会社 杏林舎